

井上 敏博 (いのうえとしひろ) 先生 日技認定講師



生涯研修3期終了

略歴

1959年 生まれ

1980年 広島歯学部附属歯科技工士学校卒業

1980年 広島市内 サンラボラトリー勤務

1983年 T.I デンタル・アート開業

『吸着する総義歯への近道』

～既存の総義歯製作方法をシステム化する～

吸着する総義歯製作のために重要なことは、良い印象と正確な重合です。

1. 良い印象とは

印象時に個人トレーが口腔内に吸着していることが大切です、吸着しない印象は義歯になっても吸着するわけがありません。

吸着するためには個人トレーの正確な辺縁の設定が欠かせませんが、歯科医師でも正確な設定ができる方は多くないように感じます。

そこで印象は歯科医師だれもが良い印象採得できるよう、歯科技工士が模型を読むスキルを身につけ、正確な辺縁の設定を施した個人トレーを提供することが大切になります。

歯科医師と力を合わせ良い印象を獲得することは吸着する総義歯への近道です。

2. 正確な重合とは

口腔内に吸着した印象をそのまま義歯になっても吸着させることです。

吸着した印象が採れたのに、義歯になって浮いたり落ちたりするときは、すべて歯科技工士の責任です。

レジンの正確な成型はとても難しいことです。レジンの種類、重合方法が違えば熱収縮、重合収縮の対処方法も変わりますが、正しく理解されている歯科技工士は多くないと感じます。

そこで製作方法別に熱収縮の補償方法をマニュアルにしたので、皆さんには明日から利用していただけます。

重合収縮の補填については、各メーカーのシステム重合機器に匹敵する、シリコーンゴムを使った埋没法をご紹介します。この術式は月刊歯科技工の2013年10月号に掲載されています。

歯科技工士が義歯成型の正しい知識と技術を獲得することは吸着する総義歯への近道です。

MEMO

大西 英記 (おおにしひでき) 先生 気象予報士

略歴 1943年 生まれ 松山市



気象庁在職中は、松山、高松、大阪管区気象台にて予報官、松山地方気象台技術課長を務め、局地豪雨の発生機構・地震関連など地域防災の拡充に従事。

平成18年4月から5年間、NHK松山にて「いよかんワイド」のお天気キャスターを行う。

日々の「お天気歳時記一口メモ」では、生活に密着した四季折々の話題を提供。

また、金曜日の「えひめの気象」では、皆様からの質問に答えるほか、季節の現象をお茶の間に紹介。

現在は、気候変動・気象災害などお天気に関する話題、地震関連の講演を行う。

『南海トラフの巨大地震に備えて』

キーワード

- 地震のしくみ
- 愛媛県に影響した地震
- 地震災害の対策
- 昭和南海地震の記録 (ビデオ)

1995年1月に発生した「平成7年兵庫県南部地震」(M7.3)以来、西日本は地震の活動期に入ったと言われています。

また、2011年3月11日「東北地方太平洋沖地震」(M9.0)が発生し、広域に及ぶ想定外の大災害と原発の過酷事故が起きています。

これを受けて政府は、近い将来、高い確率で発生が予想される南海トラフ巨大地震について、2012年8月と2013年3月に震源域や津波予想の見直しを行っています。これまで繰り返されてきた地震は避けることが出来ませんが、地震を知ること、被害をいかに軽減できるかが重要な課題となっています。

そこで、今回は神戸で体験した阪神淡路大震災なども含め、地震に関する話題提供で地域防災の拡充につなげればと考えています。